

スポーツもバーチャル

世間一般では絶対許されない言葉でも場によっては使えたり、むしろその方が的確でインパクトのある言葉や使い方があります。

たとえば、繁華街のど真ん中で「殺せー」、「刺せー」と大声で叫べば、即警察に通報されるでしょう。ましてや「二人死んだ、あと一人」と続けばもう凶悪犯にまちがいありません。

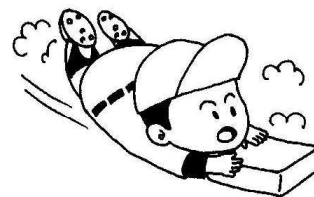
ところが、野球では「殺す」「死ぬ」「刺す」「盗む」という、学校現場では絶対使ってはいけない非教育的な言葉が堂々と使われます。たとえばサードゴロを打ったバッターがファーストでアウトになったとしましょう。この場合の記録は、三塁手に「補殺」、一塁手に「刺殺」と記されます。

「補殺」は「殺すお手伝い」ですから法的には「ほう助」の罪です。また「刺殺」は「刺し殺す」という意味ですから文字通り刃物による凶悪事件です。さらに、走者を挟んでアウトにすることを「挟殺」と言います。これにしても「挟んで殺す」わけですから複数で一人を戒める卑劣な犯行です。

野球選手は「殺す」回数が多いほど守備においては名選手ということになるのです。

アウトは「一死」、「二死」と言い、「死ぬ」ことなのです。また走者が次の塁をねらうことを「盗塁」と言い、「盗む」ことなのです。法律的には「窃盗」であり、一般社会では「泥棒」です。

野球の大会ではこのような残酷かつ非道徳的、非社会的な言葉が親や監督や多くの大人たちから子どもたちへ大声で浴びせられます。



「盗めー！ 刺せー！ 殺せー！」「あと一人！」

- * 野球部の保護者の方から抗議の電話やらメールが殺到するのではないかと恐れています。しかし、同じように野球を愛する人間が少し視点を変えた時に見える風景と解して笑って読み流していただければ幸いです。